

2026 年 1 月
No.487 号



動き出せば景色が変わる

森 直樹（社長）



明けましておめでとうございます。2026 年も宜しくお願い申し上げます。

行動するところにあらゆる機会が眠っています。静かに座っていて向こうからチャンスがやってくることは無く、行動している人に機会がやってくるということです。とあるメーカーの方と話している際、オンラインでの打ち合わせと対面での打ち合わせを比較して、「オンラインだと要件だけを話すことで終わってしまいが、対面だと要件の前後の『間』があるので、全く別な角度からの話ができたりする。それが新たなアイデアのきっかけとなることがある」という話がありました。我々のような決まった形がなく、素材から何を使うか、何を作るかといった部分から始まる場合は、対面のほうがより広く深くアイデアが出せるのではないかと私は思います。また、昔からよく言われることですが、お客様との接触回数を増やすことで親和感が増し、依頼ごとを頼まれやすくなるということもあります。これらは自らが行動しなければ起こりません。もちろん、電車で何時間もかかる訪問先に頻繁に通うのは難しいので、そこでオンラインの活用となるわけですが、それも行動を起こすことには違いありません。使い方次第では、より充実した商談となると思います。というわけで、2026 年はメールの署名を、25 年の「動きながら考える」から「動き出せば景色が変わる」とします。自分から行動を起こす、一步踏み出すことで新しい景色を見つけ、次の道を見つけていきましょう。

不注意なのか？

光田 昭男（営業部）



車の運転が好きな私ですが、運転の楽しさが半減してしまっています。走行 15 万キロは無事故、無違反で運転をしていましたが、お客様のゴルフコンペ帰りに、日頃は走ることのない愛・地球博が開催された近くの道路で白バイに捕まり、岐阜の大〇印刷さんに打合せて向かう時に、これまた初めて走るのナビを気にして走行をしていたところ、後方約 500m は離れて走行をしていたパトカーに「前のスバル車、止まりなさい」と聞こえ、「エ～俺？」と。信号は守り、スピードはもちろん守り走行をしていたのに、なぜ止められたのかが解らず。警官に聞いたところ、「歩行者保護義務違反（横断歩行者妨害）です」と言われて、「なんじゃそりゃ」。反対車線の横断歩道に歩行者が待っており、横断しようとしていたそうで、私も初めて走る道でナビを確認して走行しており、見逃してしまったのです。警官には「初めて通る道なので」と色々説明しましたが、もちろん許してはもらえず、歩行者保護義務違反 2 点で、免停まで残り 2 点となってしまいました。一週間位ですが、イライラして「不注意なのか、運が悪いのか」と考えてしまいました。良く遭遇するのが、年配者・女性に多いのですが、横断歩道を渡ろうとせず、「車に行って」と指示する方がいます。行ってしまうと違反になってしまいます。森松近くの一時停止の取り締まりをしている警官に質問してみましたが、「一時停止していれば、事情を話せば違反にはならないと思います」との回答でしたが、一時停止を見落とされてしまえば違反となりそうですね。県外に出ると、道が解らない場合など注意が必要です。横断歩道に信号機がないために歩行者が優先になりますので、歩行者に気付いた時には手遅れなことがあります。2026 年、安全運転で頑張ります。

日本三大花火大会

河嶋 桂子（東京オフィス）



日本三大花火大会というと、秋田県大仙市の「大曲の花火」、新潟県長岡市の「長岡まつり大花火大会」がすぐに浮かびます。もう一つはなかなか出てこないのですが、茨城県土浦市の「土浦全国花火競技大会」を加えて日本三大花火大会となるようですね。諸説あるみたいですが…。それとは別に、日本中から集まった花火師たちが腕を競い合う「日本三大競技花火大会」というのもあり、こちらは「大曲の花火」と「土浦全国花火競技大会」に、三重県伊勢市の「伊勢神宮奉納全国花火大会」を加えた 3 つの大会で構成されているそうです。それぞれの花火大会には特徴があって、「大曲の花火」の始まりは 1910 年にさかのぼり、100 年以上の歴史を持ちます。各地で開催される花火競技大会の中で最も権威がある、花火師たちの憧れの大会と言われています。秋田県大仙市大曲地区で毎年 8 月最終土曜日の開催で、他の大会と大きく異なるのは、腕利きの花火師たちが一堂に会し、制作者本人たちの手によって自身の作品を打ち上げる競技大会というところ。この大会を核に、季節ごとに異なるテーマで花火大会を行うことから、大仙市は 1 年中花火を堪能できる「花火の街」としても知られているようです。一度は行ってみたいものです。「長岡まつり大花火大会」は唯一競技大会ではないのですが、祭りそのものの起源は古く、長岡空襲からの復興を願って 1946 年 8 月 1 日に行われた「長岡復興祭」が前身になっている、平和と復興のシンボルの花火大会です。そして「土浦全国花火競技大会」は毎年 11 月の第 1 土曜日に行われ、全国でも珍しい秋季開催の大会です。1925 年から続いており、関東圏での開催ということもあって多くの人が訪れます。今年、土浦花火に行ってきました。花火は素晴らしく綺麗で美しく、癒やされますね。ただ、11 月とは思えない暖かい日であったのですが、日が沈んだあとの河川敷は思いのほか冷えるもので、やはり花火は少々暑くても、夏に観に行くのが楽しめるかなと思いました。そして、どの花火大会にも共通しますが、車だと大渋滞、電車でも駅までの道のりの混雑や満員電車など、かなりの体力を費やします。覚悟して出掛ける必要はありますね（笑）。



2025年11月に第105回全国高等学校ラグビーフットボール大会愛知県予選の決勝戦が行われました。私は高校時代に3年間ラグビー部に所属していたこともあり、とても興味深く観戦していたのですが、今年の選手たちの表情や試合への意気込みには、例年以上の緊張感と希望が入り交じっていたように思いました。その背景には、今年は記念大会ということで全国大会の出場校が例年よりも多くなり、愛知県の出場枠が1校から2校に増えたことが影響しているのかもしれませんが、今年の大会は強さだけではなく、チームが一丸となることの意味や挑戦する心、最後まで戦い抜く姿勢といったラグビーの魅力が存分に詰まっていたように思います。特に決勝戦で見た各校の戦いぶりは、勝ち負けを超えて、ここまで積み重ねてきた努力や仲間への信頼が随所に表れており、胸を打つものがありました。そんな白熱した愛知県予選を勝ち抜いて全国大会への出場が決まったのは、13大会連続15回目の出場となる「中部大学春日丘高校」と、全国大会初出場の「名古屋高校」の2校です。強豪である春日丘高校の安定感のある試合運びは非常に素晴らしかったのですが、私がより印象に残ったのは名古屋高校の試合でした。初めて決勝の舞台に立った選手たちが歓声を背に果敢にタックルを仕掛け、ボールをつなぎ、最後の最後まで走り続けるひたむきな姿には、スポーツの原点ともいえる純粋な情熱が感じられました。どちらの高校も実力と想いのこもった素晴らしい試合をされていたので、2025年12月27日から始まる全国大会を観戦するのがとても楽しみです。

篠島

西垣 浩司（製造部）



前回に続き、同級生3名で篠島へ行ってきました（一泊二日ですが）。篠島は自然豊かな風景の中で、のんびりと入浴や料理を堪能できる場所でした。各宿の料理は水揚げしたばかりの新鮮な食材を使用していて、美味しさもお酒も満点。新鮮な海の幸を楽しむのは、三河湾と伊勢湾の潮流が交じり合う場所に篠島が位置しているからこそ。海の恵み豊かな島ならではの豊富な魚介類で、旬の味覚（しらす、鯛などなど……）を存分に楽しめます。篠島グルメと言えば「しらす」。篠島ではしらす漁が盛んに行われており、旬である4月から12月の時期は「生しらす」が名物です。鮮度が落ちるのが早いため、水揚げ地でしか味わえない鮮度だからこそ感じられる歯ごたえや独特な甘みは、ご飯もお酒も進みます。他にも、釜揚げしらす、しらす佃煮、しらす天ぷらがあり、満足間違いなしです。また、篠島には美しい景色や歴史ある建造物が目白押しで、自分の手や足で、残された自然や



歴史に触れることができたと思います。島内を気になったスポットへ自在に移動するならレンタサイクルがおすすめ。篠島は自然も多く海風も気持ちいいので、自転車で颯爽と走り抜けてみませんか。（疲れますが。）楽しみ方は人それぞれですが、島内に祀られている88体以上の「弘法さま巡り」では、さまざまなお姿の弘法さまに出会えますよ。自然に囲まれた離島の朝夕の景色は、言うまでもなく見応え抜群。旅行の醍醐味を3名で存分に楽しめました。次回は……。と思いました。



いとこ会

阿部 かおる（特販部）



先日、何十年かぶりにいとこ数人で集まりました。きっかけは叔父が亡くなったことで、葬儀で顔を合わせ、「集まろう」という話になり…。みんな近くにいたこともあり、子どもの頃はお盆やお正月はもちろん、何かあれば集まって、子どもたちはゴム跳びや、かかし（石を投げてケンケンして進む遊び）などをして遊び、大人たちは愚痴や自慢話で盛り上がり、それが楽しみでもありました。私が10代後半の頃に親戚3家族で親のふるさとである岩手県に旅行に行ったのが最後に集まったときで、今回久しぶりに会ったいとこたちは、歳はとっても雰囲気や話し方などは全く変わらず小さい頃のままだ。「久しぶり〜」と会ったそのとき、懐かしすぎてうろっとしてしまいました。昨日会ったかのように話が弾み、食事をしてお茶をして…。小さい頃によくみんなで集まったときのような空気感で、自然体でいられるとても心地よい時間でした。今回はせっかくなので、それぞれの親（みんな母親）も参加しましたが、親たちは勝手なもので、自分が話したいことをわーっと話したらあとは知らん顔。人が話してることは興味がないのか全く反応せず、また思い出したかのようにしゃべりだす。あけく食事が終わったら「眠たい」とみんな横になる始末（-_-;）日々のルーティンですが、久しぶりに来た人の家で寝るとは流石。からくりテレビのご長寿クイズを見ているようで、みんなで大笑いしました。昔の写真をたくさん出してきてみんなで見て、「ここ行ったね」「この時はこうだったね」「あーしたね、こーしたね」などと、話が尽きませんでした。帰り道、母が「もうこんなふうにみんなで集まれるのは最後かもしれないね」とポツリ。いえいえ、みんな元気なので、また桜が咲くころ集まろうといとこチームは約束しました。しばらく疎遠になっていましたが、また楽しみが増えました。